

## ⑭ ナスの育て方

# 1～3番果，早めに収穫

連休も過ぎ、日差しもだいぶ強くなってきました。夏野菜の植え付けの最盛期となります。ナスは古くから栽培され、淡泊な味でクセが無く、どんな料理とも相性が良いため、日本人にとってなじみ深い野菜の一つです。多くの品種は紫色ですが、中には白色や緑色をした品種もあります。ビタミンKやカリウム、葉酸をバランスよく含み、食物繊維も豊富です。

### ①畑の準備 植え付けの2週間ぐらい前に苦土石灰を

1平方メートルあたり150グラムを施し、よく混ぜ耕します。その1週間後、1平方メートルあたり堆肥3キログラム、化成肥料（成分15・15・15）1150グラム、ヨウリン30グラムを施し、90～120センチ幅の平うねを立てます。

### ②苗の植え付け 苗は、茎が太く、節間が詰まっている

ものを選びましょう。株と株の間を50センチ間隔で植えます。探植えにならないように注意し、苗がぐらつかないように仮支柱をしましょう。

### ③整枝と支柱立て 1番花が咲いたら、1番花の付いた

枝とその下の2本のわき芽を残して、その下に出ているわき芽は除去します。3本仕立ての整枝をしたら、1週間前後の支柱を立て風で倒れないようにします。

### ④敷きわら 降雨時の土のはね返りによる病害の発生

防止と地温の上昇、乾燥を防ぐために敷きわらやマルチなどをします。

### ⑤追肥 最初の実がピンポン玉ぐらいの大きさになった

とき、1回目の追肥を行います。追肥用化成肥料（成分16・0・16）などを1株あたり30グラム施し、軽く耕し、土寄せします。2回目以降は、2～3週間ごとに施す場所を変えて1回目と同じ量を施し、同様に軽く耕し土寄せします。

### ⑥病害虫 病気は、褐紋病、うどんこ病などが代表的な病気です。害虫はアブラムシ、ハダニ

などが発生します。

### ⑦収穫 1～3番果は、早めに収穫し、株の勢いをつけるようにします。収穫が遅れると食味

も悪くなり、樹勢も弱まります。収穫は、必ずハサミで取るようにします。手でもぎ取ると茎を傷め、病気発生の原因となります。

### ⑧更新せん定 真夏になると株が弱って実着きが悪くなるので、7月下旬ごろに各枝の側枝

を残して枝先をせん定し、追肥します。4週間ぐらいで再び実を着けるようになり、秋ナスを収穫できます。



（鹿児島市都市農業センター）

平成30年5月10日（木）／南日本新聞